

マイスターが考える

# 新時代の 歯科医療

NEW ERA DENTISTRY online live seminar

2040年の歯科の姿を思い描く

2023/2/23 祝

配信時間 9:30-13:15

LIVE 配信 (のみ)・振り返りなし (。))

第3回  
HaBon 特別オンラインセミナー

MEISTER

齋藤 淳 先生  
相田 潤 先生  
奈良 嘉峰 先生  
天野 敦雄 先生

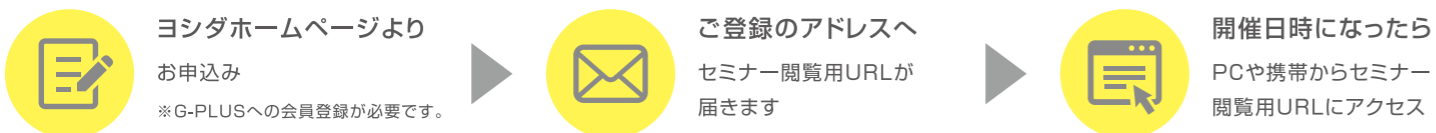
お申込み ヨシダのホームページよりお申込みください。

ヨシダ  <https://www.yoshida-dental.co.jp> スマホからはQRで簡単アクセス▶



## お申込みから受講までの流れ

本セミナーはLIVE配信のみです。見逃し配信・振り返り配信はありませんので、予めご了承ください。



※受講の際はスピーカーではなく、ヘッドセットやイヤホンのご使用をお勧めします。  
※通信不具合によりご参加・ご視聴いただけない場合の保証はできかねますので、予めご了承ください。  
※振り返り配信はございません。予めご了承ください。

〈受講料〉	
歯科医師:	5,000円 (税込み)
歯科衛生士:	3,000円 (税込み)
コデンタルスタッフ:	3,000円 (税込み)



細菌検査は  
歯周治療に何をもちらすか

齋藤 淳 先生  
東京歯科大学歯周病学講座 教授

歯周病を感染症として捉えるならば、歯肉縁下プラークの細菌検査を行い、検出された細菌に対する治療が原則となる。しかし、プラークはバイオフィームであるため機械的に除去する必要があり、抗菌薬の使用はあくまでも補助的な位置づけである。また、歯周病は多因子性疾患であり、宿主や環境因子へも適切に対応していかなければならない。今回、歯周病原細菌の役割や治療における細菌検査の意義を中心にお話しし、細菌以外をターゲットとする新たな治療法についても紹介させていただく。人々が歯周組織の健康を通して全身の健康を得るために、歯科医師・歯科衛生士がどのように関わるのか、一緒に考える時間にしたい。



今見直す、  
根拠に基づいた医療 (EBM) とフッ化物応用

相田 潤 先生  
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野 教授

根拠に基づいた医療 (EBM) やエビデンスという言葉は日本に定着したが、その概念は必ずしも正しく理解されていないようにも見受けられる。特に歯科は医科に比べて疫学や公衆衛生学の専門学会の少なさもあり、この傾向は顕著なように思われる。この状況は歯科専門職の間に誤った情報を広め、ひいては患者や住民の方々への不利益を生じさせる可能性があり、深刻な問題である。そこで本講演では、インプラント利用者にフッ化物配合歯磨剤が有害であるという深刻な誤解や、クロルヘキシジン製剤のアナフィラキシーのリスクなどを含め、最近みられる例をもとに、データとエビデンスに基づいてフッ化物応用の解説を行いたい。



医院で取り組む、  
歯周組織再生療法の実践

奈良 嘉峰 先生  
医療法人社団 慶悠会 茅ヶ崎駅前奈良デンタルクリニック

歯周炎が進行すると歯の支持組織は失われていき、放置すれば最終的に歯は喪失に至る。歯周組織再生療法は失われた歯周組織を回復し歯の保存を可能とする、大変魅力的な治療法である。歯周組織再生療法を含めた歯周外科治療を効果的に行うためには、施術前に歯周基本治療を徹底することが重要であることが知られている。実際に歯周組織再生療法に取り組むにあたっては歯科医師と歯科衛生士が診査、診断、治療計画の段階からチームとなって歯周治療を進めることが望ましい。今回は、歯周組織再生療法を行う前に歯周基本治療で押さえておくべきポイントや術後の口腔ケアの際に注意すべき点などを中心にお話させていただこうと思う。



2040年問題に挑む近未来の歯科医療  
日本歯科医学会「2040年への歯科イノベーションロードマップ」

天野 敦雄 先生  
大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子免疫学講座 予防歯科学 教授

2040年、日本の高齢者人口はピークを迎え、15~64歳の生産年齢人口は激減する。世界一の超高齢国となるのである。日本歯科医学会では、歯科医療の進化により2040年問題に対応すべく「2040年への歯科イノベーションロードマップ」を作成した。健口は全身の健康を支えている。近未来の先進歯科医療によって高齢者の健口を守り、健康寿命の延伸につなげるのである。イノベーションロードマップは3分野構成、I. 新規検査・技術・治療法、II. 新規材料・機器、III. 健康長寿社会の実現・フレイル対策である。各分野が共創する近未来像は、①テーラーメイドの予防歯科、②破壊的な口腔でも、健口が取り戻される歯科医療技術、③う蝕と歯周病を発症させにくい口腔細菌叢の人工的構築、が大きな柱である。数年で実用化されそうなもの、実用化の目途が立ったものなど、イノベーションの数々に近未来の歯科の姿を思い描き、ワクワクして頂きたい。